

2. 訪問概要

項目	詳細
訪問（視察）場所	釜山港湾公社広報館、BNC T
訪問日時	平成 24 年 7 月 9 日(月) 13:00～14:30
概要	<p>■釜山港湾公社（BPA）広報館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釜山北港（旧港）、釜山新港の開発の状況を紹介した映像を視聴 ・釜山新港の完成予想ジオラマを見ながら港の整備状況を解説 ・釜山新港については、長期計画で整備していくため、まず北コンテナ埠頭を整備、次いで南埠頭を整備。最後に西埠頭を整備して 2020 年頃に完成を目指している。 ・コンテナターミナルの整備に合わせ、周辺に産業団地、住民が生活するための居住区域の整備、輸送用鉄道網の整備などを順次進めている。 ・釜山北港（旧港）については、いずれ港湾の物流を全て釜山新港へ移行し、釜山北港（旧港）周辺を商業施設に再開発する計画がある。 <p>■概要説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・垂直型ターミナル（釜山新港唯一：コンテナが岸壁に対し通常「平行」に置かれているが、このターミナルは垂直に置かれている。） ・釜山は輸送に最適なロケーションである。 ・道路網、鉄道網でつながっている。 ・釜山北港（旧港）までは約 28 km ・経済自由区域内であり、インセンティブ制度が強みである。 ・2011 年、コンテナ貨物量で釜山は世界第 5 位 ・2012 年、釜山新港は釜山北港（旧港）の取扱貨物量を抜くと予測 ・5 つのコンテナターミナル <ul style="list-style-type: none"> 韓進は自家用ターミナルを有する。 BNC Tは民間投資型ターミナルである（KMT Cも出資）。

概要	<p>■BNC Tの特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BUSAN NEW CONTAINER TERMINAL：釜山新港コンテナターミナル株式会社 ・釜山新港のコンテナターミナルを運営する会社の一つ ・唯一の垂直型、全長 1.4 km、4 バース、1,800 万 TEU (Phase1) Phase2 にて、水深 - 17m、2,700 万 TEU が完成する。 ・垂直型ターミナルをアジアで初めて採用（ドイツ、アメリカ等、世界で5つ程度しかない珍しいターミナル） ・荷物をつける際、垂直のためトラックは入れない。 ・荷降ろしの時間短縮 → CO2 の削減 → クリーンターミナルの実現 ・ストラドルキャリア（両側に寄せ、中央（ヤード内）はオートメーション化）→ エラーなし、安全、環境に配慮など最適な作業の追求 ・オートメーション（高い生産性） ・ターミナルフルサービス（検疫、X-RAY、inspection and weighty、オンドックサービスにより 20%の物流コストの削減） ・Ideal ターミナル for vessel（大型化対応、28,000TEU まで対応可） → 生産性を高めることが最大の目標 <p>■考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートセールス等で荷主からよく聞く話として、「釜山港のトランジットの際に、荷物の積み込み忘れなどの懸念がある。乱雑に扱われているようだ。」との声もあるが、積み忘れ防止の現状や乱雑に扱われていないこと、ヤードのオートメーション化の現状などを伝えることで荷主の不安解消につながると考えられるほか、トランジットしても安全であるということを前面に直江津港のセールスに積極的に活用していくことが可能 ・コンテナターミナルは、2020 年まで順次整備中であることから、B P AやBNC T等、引き続き情報入手に努める。整備状況等、時機を踏まえて再度視察する必要がある。
----	--